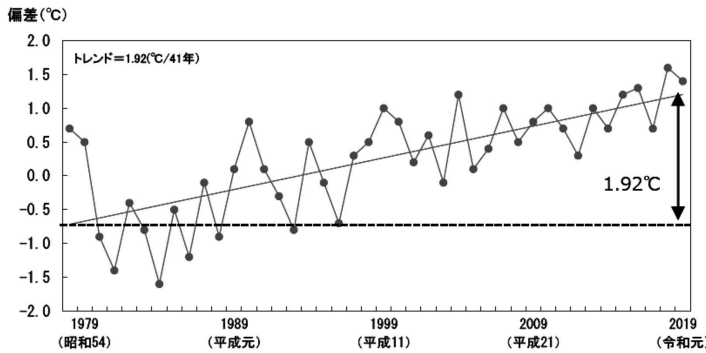


「ゼロカーボン」へ待ったなし！



船橋市年平均気温の推移 (出典: 船橋市地球温暖化対策実行計画)

沸騰の夏 力をあわせて阻止しよう

ふなみち

2024年
8月6日(火)
第3607号

船橋市役所
職員労働組合
発行責任者 青木 賀一
編集責任者 榊 義明
Tel.047(436)3093
fax(436)3091
Eメール f-kumiai@alpha.ocn.ne.jp



夏の暑さは年々上昇し、今や「最高気温35℃」は当たり前になる異常な状態です。この暑さは二酸化炭素などの温室ガス増加が原因であることは疑いのない事実。これ以上の気温上昇をくい止めるためには温室ガスの排出を抑制する以外に道はありません。温暖化対策において自治体の役割は重大です。船橋市は2021年に「2050年ゼロカーボン」を宣言し(県内9番目)、今年6月現在県内54市町村中33市町村が宣言)、2023年10月には、県内初となる本庁舎のエネルギー由来のゼロカーボンを達成するなど地球温暖化対策を先進的に進めています。温暖化のとりくみを担当している環境部・環境政策課ゼロカーボンシティ推進室のレクチャーを得て、船橋市のとりくみを紹介いたします。

国が定めた「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいて、船橋市も「地球温暖化対策実行計画」を策定しています。実行計画は、「区域施策編」(行政区の事業者や市民のとりくみ)と、「事務事業編」(船橋市が行う事業

**船橋市
温室ガス排出量削減目標**
★2030年度までに
46%削減(2013年度比)
★2050年
ゼロカーボン達成!
「温室効果ガスの排出量を、森林などが吸収する量以下にすること」

「区域施策編」では、日常の節電や「3M」の分別、オフィスの省エネ改修の促進、まちなかの緑化など8つの柱が立てられています。市民、事業者と市が連携しとりくみをすすめるために「船橋市ゼロカーボンシティ推進地域協議会」(以下・協議会)が設置されています。(41団体で構成 今年7月現在)温暖化にかかわるイベント、講習会、学校の授業を活用して子ども対象に出前講座を開催して、

「ゼロカーボン」に向けた機運を高めています。協議会の事務局はゼロカーボン推進室が受け持ち調整を図っています。

「事務事業編」の概要

- ソーラーパネルの設置、バイオマス発電(高瀬・西浦下水処理場で汚泥から発生するメタンガスを利用して発電しています)など、規模の大きな施設の建設や改修をすすめる。(左写真は西浦バイオマス発電施設)
- 施設設備の定期的な点検、維持管理をおこなう。

○市の施設で照明をこまめに使用すること、アイドリングストップなど公用車の運用に配慮すること、「3M」の分別を徹底することなど、職員が日常的にできる努力を積み重ねる。

○市の契約する受注者に対して、温室効果ガスの排出削減に寄与する条件を付けることや、環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を積極的に進めるようにすること。



温暖化対策は一人ひとりの意識から

温暖化対策実行計画は、あらゆる市の事業に関わっていることがわかります。

特に本市は人口65万人の全国有数の大都市ということで、温暖化対策をすすめる上での困難もあります。

ゼロカーボン推進室のレクチャーでは、「温暖化対策は多岐にわたっています。今年度から熱中症対策として『クーリングシエルト』(7月現在)を指定し、本室が担当することになりました。温暖化対策は全市あげてのとりくみが大切です。各課と連携を図ってすすめていきたい」とのことでした。

子ども達の未来のためにも気温上昇の阻止に向けて、力をあわせていきましょう。

あなたの職場は大丈夫？

異常な暑さで、現場先で具合が悪くなったという話も伝わっています。各職場には「労働安全衛生委員会」(労安)が職員の安全と健康維持のためにとりくんでいます。勤務形態や必要な装備の支給など、改善して欲しいことを労安・組合までお寄せ下さい。

